

## 編集後記

時を同じくして2月24日にロシアの一方的な侵略により始まったウクライナでの紛争のさなか、「平和教育を見つめ直す」をテーマに、第二次世界大戦下の日米関係を考える第11回国際学生フォーラムが無事終わった。学生たちは、戦争というものが遠い過去のものではなく、今まさに起きている問題として捉え、戦争を終わらせ、平和を維持するために、学生として何ができるかを真剣に考える貴重な機会となった。

また、このフォーラムは近年、超国家的視点からのシティズンシップ教育をめざしているが、このように渡航が全面的に制限され、開催が危ぶまれる中、オンラインで開催にこぎつけ、かつ大きな成功を収めたこと自体が、高等教育機関に学ぶ学生として、また教員として、COVID-19を克服するための重要なアクションであったと考えている。

両校の参加学生は発表や討論、交流の中で、様々な学びや気づきを得ているようであった。また自身が学ぶ学習言語を積極的に使い、プレゼンテーションやディスカッションのツールとして活用し討論し結論を導き出した。そしてその結果として、自身のできることを考え、今後の自身の行動の指針としており、シティズンシップ教育としてのフォーラムの意義も達成できたものと考えている。

世界がグローバルになればなるほど、引き起こされる問題もグローバルなものとなる。国境を越えた人々の移動は、これまた国境を越えた感染の拡大により阻まれている。こうした問題を解決するためには、国境を超えて学生たちが集い、学び、解決をめざすことがますます重要になる。今回はオンラインでそのような場を設定し、困難を克服した。好まざるグローバル化と求められるグローバル化とがぶつかり、克服した瞬間だった。

国際学生フォーラムは二回り目に入ったが、今後もこうした機会が未来を担う若き学生たちに豊富に提供できればと思う。

(森山)

第11回国際学生フォーラム報告書

発行日：2022年3月31日発行

発行：お茶の水女子大学国際教育センター・グローバル文化学環

〒112-8610 東京都文京区大塚2-1-1

発行協力：ヴァッサー大学

編集：森山新

〒112-8610 東京都文京区大塚2-1-1 文教1号館101-4

E-mail moriyama.shin@ocha.ac.jp